

## 令和7年度第3回すみだタウンミーティング 議事録(全文)

### 区長挨拶

区長：こんばんは。墨田区長山本でございます。今年も残すところ、あと数日というところになってまいりました。お忙しいところ、すみだタウンミーティングに来ていただきまして、本当にありがとうございます。

いつも申し上げますが、区政を運営させていただき10年が経ちました。区民の皆さんと、この距離感でお話を聞いて、墨田区政を運営し、まちをつくってまいりました。このタウンミーティングでは、皆さんの様々なお考えや、御要望に気づかされながら、いろんな御意見を頂戴して、明日の区政に生かしていきたいと思っています。

ちょうど10年前に私が就任させていただいたときに、「人、つながる、墨田区」ということを、皆さんにお話しさせていただきました。東京都の災害、首都直下地震では、たくさんの方が亡くなり、被災に遭うという想定をしております。そのためハード面を鍛え、そして地震に強いまちをつくり、人と人がつながって、助け合って、支え合って、この28万のメンバーが区民として、または区内でお仕事をいただいている方々が、いざとなったときに、みんなで力を合わせて、助け合って生きていくというまちは素敵だと思っております。

さらに墨田区は可能性があるまちです。いいまちにしていこうというときに、区役所だけとか、墨田区議会の皆さんとだけではなくて、実際に住んでいただいている方、ここで仕事をしていただいている方と一緒につくっていくものです。今日は学生さんもいらっしゃるので、この御縁があって、この墨田区の大学に通ってもらえる方、皆さんとつくっていくことが一番大事なので、人のつながりというのは非常に重要なテーマだと思っています。

まさに今日は企画運営委員会の皆さんが、とてもいいテーマをつくっていただけたと思います。「つながってみよう はじめてみよう 一步のきっかけ」、それから、「多様な人とのつながり方・関わり方」、私が皆さんから一番伺いたいテーマを、限られた時間ではありますけれども、いろんなお話を頂けたらと思っていますので、よろしくお願いします。

後ほど、様々な形で私も入らせていただきますので、今日の一日が意義のある、そして墨田区にとって素晴らしい日となりますことを、心からお願いと、お祈りして、御挨拶とさせていただきます。

今日はよろしくお願いいたします。

### 司会進行:秋元氏

本日の進行と司会を務める。グループは6つに分かれており、各グループに委員(ファシリテーター役)が配置されている。

本日の流れは以下の通りである

1. テーマの説明
2. 各班でアイスブレイクとして自己紹介を行う。
3. グラウンドルール説明

グループワークを実施し、模造紙や付箋を使って議論をまとめる。

4. 各グループが前に出て発表を行う。

5. 山本区長から各グループの発表に対してコメントをいただく。
6. 全員で写真撮影を行う。
7. アンケートに協力いただき、終了となる。

#### テーマ説明

「多様な人とのつながり方・関わり方

-つながってみよう はじめてみよう 一步のきっかけ-」(山口氏)

#### テーマ設定の背景と理由

- 1.元々の課題「すみだの地域力」から発展
- 2.地域力の定義：人と人がつながり、様々な主体が各分野で地域の課題を積極的に解決していく力
- 3.墨田区の現状
  - 人と人とのつながりが強い
  - 地域課題の積極的な解決が十分でない可能性
- 4.課題認識
  - 多くの人が社会課題や地域の課題を意識していない
  - 課題当事者や支援活動団体との接点が少ない
- 5.アプローチ
  - 多様な人とつながることが地域課題を知る第一歩
  - 小さな一歩から始め、徐々に地域の課題理解を深める
- 6.墨田区の基本構想との関連
  - 新しい基本構想のテーマ：「人がつながり、夢をカタチに」
  - 目標：人のつながりによって、みんなの夢を実現できる場所になること

#### 課題と期待

- 1.課題：つながりに参加できない人々の存在（金銭的、健康面、家庭環境等の理由）
- 2.期待：オープンな気持ちで新たなつながりを作ること

#### 本日の参加者への期待

- 1.積極的に出会った人とつながりを持つこと
- 2.テーブルを共にする人々と交流すること
- 3.多様なつながりを目指す方法を一緒に考えること

#### グラウンドルール説明

みんなが話そう 話は短く、みんなが話せるように

みんなで話そう ひそひそ話は NG

みんなで聴こう 他の人の話に耳を傾けよう

批判はやめよう 自分と違う意見も受け入れよう

話に乗っかろう 他の人の話に便乗し、膨らませよう

## グループワーク発表

テーマ：「多様な人とのつながり方・関わり方」

ここで出会った人たちとつながりを持つ。どのようにしたら、より多様な人たちとつながり、関わる事ができるのか、オープンな気持ちで考える。

<課題> すみだで生まれている人とのつながりとは？

どんな人と、どんな場で、どんな仕組みでつながりが生まれるか考えた後、さらに多様な人とのつながりについて意見を出し合う。

<課題> これからつくりたいすみだのつながりは？

「どんな人」とのつながりを広げたいか。課題、または新規に出た案の中から問題の原因は何か。どのように解決し、誰が取り組むべきか考える。

## グループワーク発表

A班：まずどんな人とつながりたいかという点、私たちの班は昔から墨田区に住んでいる方が多かったため、大学生から20代の若い人、学生という意見がでた。

つなげる場として、イベントや、お祭り、住んでいる人と学生がつながれる場所を公共団体、区、民間会社がイベントを企画、公共的な何かが主催するものでないと、つながるきっかけが生まれにくいところなので、そこに「場」とした。

仕組みとして、会社が主催するイベントは、意外とリクルートの様な、人事が働いているところが大きいと思うので、そこで学生を前面に出してもらうことが重要であると考えます。企業とつながれるところで食いつく学生も多いのではないかと思います。

そこを地域とつなげるために、墨田区にある地域の会社が行うことで、学生と地域というところがつながれるのではないかと考えている。

補足として墨田区には大学が、4つできた。最初にできたのはIU情報経営イノベーション専門職大学、続いて千葉大学と、まだ10年経っていない。私も前から住んでいて、そういう学生の方が入ってくるが、昔から住んでいる私のような年代の人間とは、なかなか交流できていない、そういう交流があるとすごくいいなと思っている。そして場所として、色々なアイデアがあると思うが、学生の方は就職等、そういったものをターゲットにしているので、そういった企業との出会いの場を連携、協力して作ることで、いろいろつながりが生まれてくると思う。

B班：先ほどのAグループと、ほぼ同じ内容となっている。人としては若い人、ワンルームに住んでいる方等を中心にターゲットを選定したいと思っている。

場所としては、お祭りやイベントの町会自治会、例えば、縁日や地域で行っている、でっかいお祭りをターゲットとしている。

仕組みとして、SNSで行う。若い方々はまちの中にある掲示板等あまり見ないので、SNSや紙媒体、大学の掲示板を活用する。

最後に、誰がというのが、その大学の皆さん、その教授とプロジェクトをやりながら、その地域の方々とつながり、その中でSNS運用等のつながりがあるといいと思う。

補足としてイベントは大賛成だが、自分の住んでいる周辺でのイベントを大切にしてほしい。それで、

挨拶が隣近所とできるような関係になりましょう。全国的なイベントで、好きなもの同士が集まるのは、どこでもやっているが、定着しないので、自分の生活しているところでやることを勧める。

C班：課題として、関わりのない人同士をつなげたい。昔から住んでいる人と新しい人の御近所付き合いが、昔はあったが最近はそのような付き合いがない。そのほかの意見として、地域とつながりたいという共通の価値や、まちを盛り上げたい人同士をつなげたいという意見もでた。

いろいろな情報、アナログ、デジタルがあると思うが、情報分かりにくく、情報を取りにいきづらいつい課題がある。これはまちづくりをする人等が解決する。ただ、まちづくりも義務でやってしまうと破綻してしまうので、ゆるいつながりが必要となる。ゆるくつながれば、義務でやらないはずなので、こういったところの場をつくり、SNS等々で発信して情報を取り、みんながつながれるところにしていける仕組みがあるといいと考えた。

金銭的な報酬や、みんなが幸せな、ありがたいの連鎖が起きる仕組みというのが、とても大事だという事を班の中で話し合った。ありがたいの連鎖とは、価値観を共有できる仲間と、情報等を提供し合うことによって、お互いありがとうと言ってもらえる関係で、非金銭的な報酬が生まれ、人が動くことだと思う。その価値の共有というのが、そもそも必要だろうと思う。

D班：「墨田区のイベントはすごく充実している」というのが共通点として挙げられたが、案外、知らないイベントって多いなと感じている。実際「うわ、こんなイベントあったのかよ」というのがある。

そこで、イベントをする人、イベントに参加したい人、イベントに出店したい人、例えば飲食店とかをマッチングする仕組みが必要だと考えた。そこで、デジタルだけだと、デジタルデバインド（情報格差）の問題が発生するので、アナログで区報だったりとか、公共施設の掲示板、あとは公共設備、昔は黒板の伝言板があったと思うが、そういうものを置いて自由に書いたりする仕組み良いのではないか。

また、デジタルのところでは、マッチングアプリというものがあるが、そのイベントバージョンでマッチングサイトを作ればいいと考えている。

イベントがたくさんあるところは、墨田区は強みである。ただその活動は、活動している人だったり企業だったりつながる機会が余りないところが課題である。例えば、AIを活用することも必要という意見もある。

E班：つながることが余り上手ともいえない、つくるのが不得手な方、そもそも墨田ってどんなところか、灯台下暗し状態になっている取り残されがちな方を、どうやって包摂するか、つながりをつくっていくかというテーマで話し合った。

具体的には、地域福祉のプラットフォームや隅田公園広場、見える防災情報ハブ（災害情報ハブ）などを使っていけば、そこが拠点になるのではないかという話になった。特に、隅田公園広場というのは、イベントの開催もできるので、特に無関心な方であっても、入りやすい空間がつけれるというのが一線を画すところである。

仕組みとしては、そのインフラ的なハブもあるが、基本的には、先入観なく何も考えずに行ける場所にするというのが特徴である。

場としては、文字起こしのアプリ等も使用し、色々な方が来てくださるように進めていければと思っ

ている。民間のアプリ開発の企業が世界に字幕を添える展示会を開き、いわゆるオフィスを超えて、色々なところに字幕が見えるのが当たり前の社会を提案しており、それが素敵だと感じた。

最後に、誰がやるか。文化人類学や、いわゆる地域創生系の方面で、フィールドワーク等をしている学生を提案する。双方が納得できるような関係性を作りたい。

F班:多様な人というところで、人を一つに絞るって難しくないかという話があり、定義として同じ志を持つ人同士を「人」として考えた。それは同じ趣味を持つ人も、同じ社会課題を持つような人を同士というふうに捉えて、その人たちが伝える場をつくる必要があると考える。

SNS等で、それぞれが発信することはできるが、情報が散らばっており、一つの場所で伝える場とそれを受け取る場が必要。そのために、どんな仕組みが必要かということ、主体的に参加のできる場所が必要だとなった。

具体的には、一緒に御飯を食べたり、一緒に何かつくったり、手や体を動かしながら作業や、農園で一緒に何かものをつくるというような、主体的に参加のできる場所、仕組みを用意する。

その場所をつくっていくのは動ける人、場所を提供できる人になるが、そこに区や、行政のバックアップがほしいと考えている。

信頼のできるどころの情報発信があることで、最終的に情報がバラバラにならずに、一つのところで受け取ることができ、伝える場も一つのところに集約されて、みんながいろいろな情報を知れる場所につなげていくというふうに考えた。

補足として、最初の話でどこにどんな課題を持って、どんな課題を持っているかもそうだが、どんな人がいるのか、実は分からないことが多い。なので、それがつながる仕組みというのが、すごく大事だよということが根底にあって、これを考えている。区民が主体だけでも、それをまとめる情報の信頼性等は、行政にやっていただきたい。

区長講評:皆さん、お疲れ様でございました。随分絞り込んで、多くの付箋が1列から2列にうまく収まっていたので、大変御苦労があったのかなというふうに思いました。非常に分かりやすく、絞り込みが私のほうにも伝わってきました。

#### A,B,C班について

やっぱり大学生、若い人、この中に皆さん、そういう方がいらっしまったので、A、B、C、そういう人が入ってくることが、まちの活性化や元気につながると感じました。それから、今聞いていて思ったのですが私、コテコテ墨田区民でして例えば、町会の副会長を昔やっていたり、PTAの会長やっていたり、剣道も、自分が習っているところも小さい頃から習っていた先生で、次は自分が先生になって教えるというような。結局、そういう決まった世界で僕のつながりをつくってきた人です。そこが、僕には分からない皆さんの、若い人だったり大学生だったり、そういう人とつながることが、まちを元気にしていくということを、AもBもCも言ってくれたのかなと感じたところです。

それから、イベント、お祭り、墨田区は盛んなので、これをどのように皆さんに伝えて、参加してもらうか、出会いの場に参加してもらうということが非常に大事。これは、今までのタウンミーティングの中にもありましたけど、なかなか必要な情報を必要な人が取りきれないということも、どの班も同じ

ようなことをおっしゃっておられて、そこを解決する手段として、皆さんなかなか面白いことを言っておられたなというふうにも感じたところです。

例えば、地元企業に入ってもらって、しっかりつないでほしいとか、若い人がそういうところに興味があるのだから、そういう人はうまくつなげてほしいとか。大学教授というのは恐らく、いわゆる学ぶフィールドとして墨田区があるので、先生がそういう意識づけをしてくれると、そういうテーマで学ばせてくれるとつながりやすいのではないかと。参加する機会というところの中で、うまい提案もあったのかなというふうに思います。

それから、B班のところで行われた、自分の近くで、仲間をつくっていかないと長く続かないというのはまさにそのとおり。ちょっとだけお付き合いして、そこは一瞬盛り上がるけど、次の段階でそれが消えて、次の形に発展形につながっていかないと、少しいつらいですねというのは、そのとおりだなと思いました。

同じように、価値観の共有や仲間づくりをしないと、これも続かないし、最終的なその課題の解決、本当の意味で、昔から住んでいる人と新しく住んだ人というのは、そもそも歴史が違うので、そこで共有感がないと、本当の意味でのまちを盛り上げたり、ということには、なかなかつながっていかないのではないかと、まさにそのとおりだというふうに思います。

結局、それぞれ頂いたことを、実は次の答えを、出していくということが、大事。それは行政で、我々がまたヒントを頂いたので、出す機会、それから大学から頂く機会、今日頂いた皆さんから、また新たな解決策としていただける機会、これが大事だなということを感じました。

A、B、C、それぞれ大変いい提案、お話だったと思います。ありがとうございました。

#### D,E,F 班について

まずは、どんな人というか、その対象になる人が全部、異なっていたというのは面白かったです。する人、参加したい人、出店したい人という対象だったり、墨田を余り御存知ない人という対象だったり、最後は、同じ志を持つ人。ところが、それをどんな人だか、なかなか知り得ない、そこがまず課題ですよ。要は、志を一緒にする人を探すためにどうするか、という話から始まっている。対象となる人が三者三様だったというのが、一つ面白かったです。

それから、墨田区のイベントが、A、B、C班でもありまして、イベントが充実して盛んなのですが、それを知らない。でも、イベントが充実しているのは強みだということ。それから、場という意味では公園があり、公園を有効に活用したらどうというの、非常にいい着眼点だというふうに思います。

さらに、飲み会って最初（発表前のグループワーク）に言っていましたけど、飲み会は大事ですよ。ただ、そこにいくまでに、例えばマッチングアプリのお話や、インフラの整備というのは大体同じようなところで、そこに公共が絡んで分かりやすく伝えていくというのは、まさに、D、E、Fの中の御意見が、後半の一つの働き、まとめだというふうにも思いました。

それから、世話好きの方やボランティアというようなお話や、それを提供できる人、例えば、食べる・つくるとか、そういうことにつなげていくために、場をうまく提供できる、つくれる人、これは一体誰なのか。誰に、頼ればいいのかというのは非常に課題で、俺がやるよって言ってくれればいいのですが、そういう志を一緒にする人というのが、どんなふうに強い塊になっていくのかというのは、ちょっとした、課題だなと受け止めたところでもあります。

それと、伝える場、受け取る場というお話もあって、これ大事なところですね。伝え合うことによって広がる、D班でも広げていかなければ、という趣旨のお話もあり、広げていく作業も大事だなと感じました。口コミや紙媒体、SNS、マッチングアプリ、インフラ等を、しっかり整備していく過程で、そこに区役所の役割はどんなのだという投げかけを、皆さんから頂いたと思っています。

言葉でいうと、先入観なく参加できるというような言葉、これまさに墨田区を知らない人でも、行ってみよう、面白そうだから、あそこ参加してみようという、こういうものが大事なのだなというお話もありました。後半の皆さんから、いろんなお話も頂けたなということで、感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

区長まとめ：本当に熱心にやっていただいて、各班、初顔合わせでもあるのに非常に打ち解けて、お話を頂いている姿を見させていただきました。区に関心を持ち、そして自分も意見を言う、これは非常に大事なことであり、我々にとっても、参考になるお話をたくさん頂けました。感謝を申し上げます。

今日初めてお会いした人たちがいます。東武線の東向島駅、その並びに、東京墨田看護専門学校という、看護師さんを養成する専門学校がありまして、その子たちがコロナでできなかった文化祭、これをやりました。そして日頃、各病院にもお世話になったり実習させていただいたりということで、何かできないかと思って、実行委員長をはじめ4人の実行委員が募金をしました。「文化祭で募金をしたら、これだけ集まったので、日頃お世話になっている区の皆さんに何とか使っていただけませんか」ということでお越しいただきました。初めてのつながりと初めての出会い、彼女たちにとってみれば、専門学校に通いながら墨田区の良さとか、お世話になっている人たちへの恩返しみたいな、つながりができました。

それから、今週日曜日に、ある町会の餅つきがあるというので行ってみました。雨なのにすごい人でした。何が言いたいかというと、若い人もいて、お子さんが小学校から保育園に通っているというお母さんたちがエプロンして、餅を返す人を代わりばんこに...やったことないのに頑張ってやっている若いお母さんたちがいました。子供たちのためにというか、町内会の子ども会を活性化させるために、自分たちは参加するのだとおっしゃっていました。一つのきっかけと、参加する機会だと思います。そういう場に行くわして、そういうものが、だんだんまちの力になっていくのだと感じました。できれば、こういう人たちが町会の役員になって、長く持続可能でつながっていただくといいのかもしれませんが、その小学校の6年間だけでも、そこに参加してくれたという尊い意思というか、善意が嬉しいなというふうに思いました。それで餅つきの会場が、町会内にあるお寺なのです。お寺の住職は、境内貸してあげるという、お寺の中で餅つきができる町会ってすごいなと思いました。それで、100人単位で、もうみんなやっていたので、これはすごい活動だと思いました。

要は、そういう墨田が持っている、いろんな資源があって、初めての人たちもいて、それは何かのきっかけでつながるといのが、今回ちょっとこうイベントというか、募金を届けてくれる、餅つきに参加することで見えてきたことです。実は、この中にも、そういうような取組をさせていただいている方々がたくさんいらっしゃるの、それが区役所として、花が咲く、地道にやってきていただいているものが、今日の集まり含めて、このタウンミーティングのメンバーで何かが起こせるというようなことがつながっていくと、若い人も入った新しい出会いと、町会の大先輩たちがいる、この一つの塊が、さらにネットワークが広がっていくことにもつながるのではないかと思ったところです。

あと今日も見えていて、挨拶から始まると感じました。こんにちとはといってアイスブレイクから始まっ

て、この2時間という短い時間で、これだけのつながり、関係性ができるということは、前向きな気持ちと、挨拶の第一印象が決まると、話は弾んでいく、墨田区という特徴があると思っています。

どうしても、この人は一体どんな人なのか、何を考えているのか、そういうところから人間関係は始まるのだと思います。だけど、墨田の特徴って、そこを越えて、信頼関係になって、話合いができて、そのテーブルごとに提案を持ってこられるというその強さというのは、ぜひ区役所としても生かしていかなければいけないし、そういうお一人お一人の貴重なお気持ちを、私たちは花を咲かせるような努力をしていかなきゃいけないというのが、今日の企画運営委員会の皆様にも、非常によい機会を頂けたと思っています。

最後に、今日の課題を頂いた中で、区役所、行政ができること、これをもう一步突き詰めてやっていけたらというふうに思うので、引き続き、今日のこの御縁を大事にして、持続的な長く続く関係を皆さんと一緒に作り上げていきたいと思っています。今日はありがとうございました。